

“シビルエンジニアの仕事”の理解向上を目指す，大学への出前講座活動

鹿島建設

正会員

○吉川 正

東急建設

正会員

渋沢 重彦

1. はじめに

建設業で構成される（一社）日本建設業連合会の土木工事技術委員会・土木技術研究部会の活動の一環として，主に関東甲信越の大学生を対象として，将来就業する“シビルエンジニアの仕事”についての紹介映像（以下DVDと略す）および関連資料を用いた建設業の主なプロジェクト・会社および現場組織の例・業務内容について紹介，そして，なんでも相談のQ&Aを通して業界の理解向上を図るべく，出前講座を3年間実施してきた。

質問およびアンケートを通しての学生達の職業選択における悩み・興味などを紹介する。

2. 出前講座の教材と内容

本活動は，開始前年度までにダム，橋梁，トンネル，海洋等の工種別に技術の変遷，伝承すべき技術などを整理・図書に取り纏める活動を行った。次段階は，伝承すべき対象者の確保が最優先事項と再認識した。

広報活動の対象者の設定においては大学生から小学生，さらに一般までの中で，先ず，土木系の大学を志望，学んでいる大学生に絞り，土木関連以外への流出抑止，知識不足による就職先（発注者，コンサルタント，建設業，専業者など）の選択ミスの削減，そして建設業界に興味を持ってもらうことを狙いとした。

DVDは，スライド形式とし，ナレーションも加えて，大学への配布，担当委員による出前講座以外の使用も可能となるように43頁・30分モノを作成した。作成に際しては，2大学の教授および学生の意見・要望も反映し，学生ができるだけ興味を持ち，彼らにとって有益と思われる内容を目指した（図-1）¹⁾。

出前講座の時間は，大学毎に異なるが，多くが活動趣旨・日本建設業連合会のパンフレット・自己紹介10分，DVD30分，Q&A20分の約1時間である（図-2）。

3. 大学出前講座の実績と参加者

表-1のように，DVDの制作に2年，試適用1年を掛けた。一昨年度から本格運用を始めて，出前講座を実施した大学は21大学，総参加者数は，3年間で約2,000人である。学生の対象年次・参加者数，説明の場



図-1 シビルエンジニアの仕事の紹介映像（抜粋）

表-1 出前講座の大学数と参加者の推移

年 度		平成 26	平成 25	平成 24	平成 23	平成 22
大学数	国公立	8	7	2		
	私立	13	14	4	2	
	計	21	21	6	2	
参加者 (人)	国公立	10~50	10~50	20~60	教授、学生に教材ヒアリング	
	私立	10~160	10~200	10~40		
	合計	約 1,000	約 800	223		

教材のコンセプト決め・素材の収集・作成



図-2 出前講座の案内ポスター

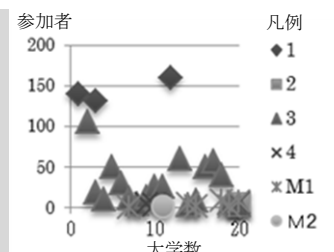


図-3 参加者の学年別分布

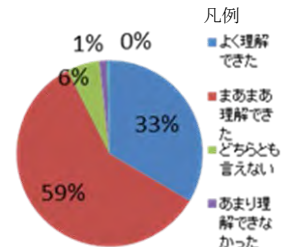


図-4 参加者の理解度分布

については，大学に一任したため，授業・ゼミ・就職説明会などいろいろであり，参加者の年次・数も異なっており，図-3のように分布している。なお，平成25年度のアンケート調査では，説明内容の理解度は，図-4に示すように90%以上である。

キーワード：出前講座，就職活動，土木の魅力，日本建設業連合会

連絡先 〒182-0036

東京都調布市飛田給 2-19-1

鹿島建設(株)技術研究所

TEL 04-489-6531

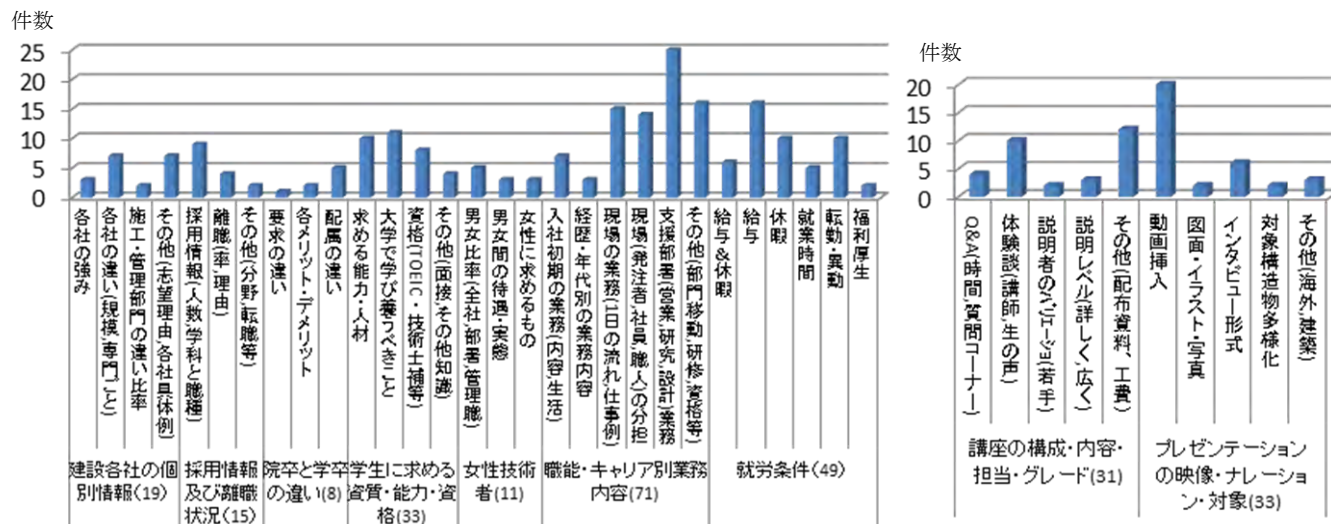


図-5 参加者の質問内容と件数

なお、平成 25 年度は、日本建設業連合会の各支部の協力を得て、その地域の国公立及び私立の大学に DVD を配布するとともに、各支部の技術委員が各支部担当エリアの大学に出前講座を実施している。

4. 学生の興味

平成 25 年度に実施した出前講座のアンケートおよび質疑内容を図-5 に示すが、会社の業務内容（職能・キャリア別業務内容）に関しての質問が多い。DVD の内容の 1/3 は現場業務の説明であり、営業・研究・設計など他の業務内容にも、多くの学生が興味を持っている。大学で学ぶことが将来役立つのか、どのような勉強をすればよいのか、資格などについての質問も多く見られた。当然ながら給与・休暇・転勤などの就業条件は関心が高い。毎回、女性が参加した大学では、男女の待遇・処遇の違いを気にしている。また、その他の質問として、我々講師の体験談、説明側の年齢の多様化、そして、今回は橋梁工事を例として取り上げているが、他の構造物の紹介も求められた。

我々の委員会は最下段に示す 11 社 13 名で構成され、各大学に対して 2, 3 名で対応している。会社・本人の履歴も異なるが、質問にも個々人の経験、考えを本音で答えるとともに、興味のある会社、発注者、コンサルタントをより正しく理解するように、先輩にしつかりと実態をヒアリングするように勧めている。

5. 課題と今後の進め方について

本格運用して 2 年が経ち、いろいろと課題も浮かび上がってきた。一番の問題は、多くの大学の連絡窓口が年度交替の就職担当の先生のために我々の活動の趣旨が後任にうまく伝わらないで、時々、リクルータと誤認されることである。また、大学ごとに就職に関する説明・紹介の年次が異なること、さらに、十木・建

築両方を専攻する学科、農学・交通などの分野の学生も混在する学科もあって、我々が狙う出前講座の対象学年が最適となっていない場合が多くみられる。

以上の課題、学生のアンケートでの要望を考慮して、別途、建設業の現状と今後について別のパワーポイントを準備したり、DVDも部分的に上映したり、説明者の自己紹介として、経歴などをより詳しくするなど、の試行もはじめている。平成27年度初めに、再度、趣旨を説明して、より理解頂くとともに、大学側の要望（説明対象学年、説明の場の最適化、必要に応じて複数回実施など）をヒアリング・反映して、先生、学生に喜ばれる、より有効かつ継続的な活動を目指す。

6. 終わりに

本委員会では、本活動を 1/3 程度のマンパワーで継続し、残りで別テーマの活動を実施する。平成 26 年度は、他部会と連携して土木学会 100 周年記念事業 T&I コンテストの I 部門の小学生中心の 5 チームのアイデアの具現化の支援も行った²⁾。引き続き土木学会などと連携して、多くの子供・学生たちが土木に魅力を感じてもらう活動を継続していく。最後に、本活動の開始段階から、ご指導・ご協力頂いた千葉工業大学の小宮学長、法政大学の溝渕教授に厚く御礼申し上げる。

土木工事技術委員会・土木技術研究部会 構成委員
 部会長：吉川正(鹿島建設) 副部会長：渋沢重彦(東急建設)
 部会委員：広野和正(奥村組)，古市耕輔(鹿島建設)，松田敏(熊谷組)，
 勝田哲史(五洋建設)，橋詰幸信(大成建設)，黒田幸宏(大豊建設)，
 小島文寛(東急建設)，河野裕之(戸田建設)，福本正(西松建設)、田
 中修(本間組)，石井祐二(三井住友建設)
 元委員：有井孝典(奥村組)，山西治夫・齋藤公生(鹿島建設)，山本泰
 道(大成建設)，東 克明(大豊建設)
 (一社)日本建設業連合会
 常務執行役 谷田海孝男 事務局 斎藤博之，山崎史郎

参考文献

- 1) シビルエンジニアの仕事: <http://www.nikkenren.com/doboku/civil.html>
2) 土木学会 100 周年未来の T&I コンテスト: <http://jsce100.com/node/365>